

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 5 月 13 日現在

機関番号：13701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K02394

研究課題名(和文) 地域学校協働活動推進員の役割のモデル化と養成・研修プログラムの設計開発

研究課題名(英文) Modelling the role of community-school collaboration facilitators and designing and developing training programs

研究代表者

益川 浩一 (MASUKAWA, Koichi)

岐阜大学・地域協学センター・教授

研究者番号：40334916

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：地域社会と学校の連携と協働を促進する地域学校協働活動推進員(初任者)に必要なとされる資質・能力を析出することができた。

○「知る・知らせる」：学校の地域ボランティアに対するニーズを知ると同時に、地域の学校に対する願いを整理する。○「聞く・つなげる」：学校のニーズと地域ボランティアの希望を丁寧に聞き、地域学校協働活動の内容を企画する。○「実行する・育てる」：目指す子どもの姿を明確にもち、学校のニーズに応じた地域ボランティアの活動や、地域行事等への子どもの参加を推進する。○「振り返る・支える」：学校等と地域ボランティアが思いを共有し、学校や地域の発展と児童生徒の成長のために何ができるのかを振り返る。

研究成果の学術的意義や社会的意義

地域学校協働活動推進員に必要なとされる力量を育成するための研修会を開発することができた。

第1回：地域学校協働活動の必要性と地域の課題発見・課題の要因の明確化。第2回：第1回研修で明らかにした地域の課題に対して願いや夢を語り合う。第3回：第2回研修で明らかにした願いや夢を実現する上でのハードル・障壁のうち、コミュニティ・スクールと協働することで解決できそうな課題を明らかにする。解決できそうな課題ごとにチームを作り、解決に向けた具体的な取り組み案の骨子を語り合う。第4回：地域と地域に生きる子どもたちの成長に向けて、自分ができることを見つけ、地域学校協働活動として実際に挑戦したい内容を討議し決める。

研究成果の概要(英文)：I was able to identify the qualities and abilities necessary for (newly appointed) community-school collaboration facilitators, who promote collaboration and cooperation between local communities and schools.

- To learn and inform: To learn what schools need from community volunteers and at the same time determine what communities desire from schools. - To listen and apply: Listen carefully to the needs of schools and the wishes of community volunteers, and use the information to plan collaborative activities between local communities and schools. - To implement and foster: Have a definite idea of the kind of children you aim to foster, and promote the activities of community volunteers that meet the needs of schools as well as children's participation in community events and activities. - To reflect and support: Enable schools and community volunteers to share thoughts and reflect on their contributions to the development of schools and the community and the growth of students.

研究分野：教育学

キーワード：地域学校協働活動 地域学校協働活動推進員 学校運営協議会 地域学校協働本部 地域社会と学校の連携と協働 力量(資質・能力)

1. 研究開始当初の背景

今日、子ども・若者の育ち・学びをめぐるのは、学校が抱える課題の複雑化・困難化、少子高齢化の進展、家族形態の変容、地域社会の絆の希薄化等による地域や家庭の教育力の低下等の問題が指摘されている。こうした問題状況に対応していくためには、地域と学校がパートナーとして協働するための組織的・継続的な仕組みづくりが必要不可欠である。厳しい時代を生き抜く力の育成、地域から信頼される学校づくり、社会的な教育基盤の構築等の観点から、学校と地域はパートナーとして協働していくことが必要である。

こうした中、地域と学校が協働する仕組みを構築し、地域と学校が協働して取り組む活動、すなわち「地域学校協働活動」（以下、協働活動）を促進・発展させることで、子ども・若者の育ち・学びを地域総がかりで支えるとともに、「人生100年時代」を見据えた地域住民の生涯学習・自己実現につなげ、活動を通じて地域のつながり・絆を強化し、地域の活性化を図ることが政策的な関心事とされている。

協働活動とは、「地域と学校が連携・協働し、幅広い地域住民や保護者等の参画により地域全体で子ども・若者の成長を支えるとともに、『学校を核とした地域づくり』を目指して、地域と学校が相互パートナーとして連携・協働して行う様々な活動」（2017年社会教育法の改正により規定）である。協働活動は、子ども・若者の社会貢献意識、地域への愛着、コミュニケーション力及び学力の向上、教員の地域・社会への理解の促進、地域の教育力の向上、活動を通じた地域の課題解決や活性化など、子ども・若者、学校、地域（住民）それぞれに対して様々な効果が期待できる（文部科学省『文部科学白書 2017』）。

そして、協働活動が地域と学校との適切な連携の下に円滑かつ効果的に実施されるよう、地域と学校をつなぐ役割を果たすのが「地域学校協働活動推進員」（以下、推進員）である。推進員は、2017年の社会教育法改正によって、「教育委員会は、地域学校協働活動の円滑かつ効果的な実施を図るため、社会的信望があり、かつ、地域学校協働活動の推進に熱意と識見を有する者のうちから、地域学校協働活動推進員を委嘱することができる。」とされ、「地域学校協働活動に関する事項につき、教育委員会の施策に協力して、地域住民等と学校との間の情報の共有を図るとともに、地域学校協働活動を行う地域住民等に対する助言その他の援助を行う。」ことを役割とするとされた（第9条の7）。

社会教育法の規定からも明らかのように、推進員は、協働活動を促進・発展させる上で重要な「鍵」を握っている。しかしながら、「社会的信望があり、かつ、地域学校協働活動の推進に熱意と識見を有する」とされる推進員が有する（獲得する）べき力量（専門性）の内実は、これまでの研究で具体的・系統的に措定されているわけではない。どのような力量（専門性）を有した推進員をいかに発掘し、養成していくかは、協働活動を促進・発展させていく上で重要な研究課題であるといえる。

2. 研究の目的

地域と学校が協働する仕組みを構築し、協働活動を促進・発展させることで、子ども・若者の育ち・学びを地域総がかりで支えるとともに、「人生100年時代」を見据えた地域住民の生涯学習・自己実現につなげ、活動を通じて地域のつながり・絆を強化し、地域の活性化を図ることが政策的な課題とされている。こうした政策的課題に応えるためには、協働活動促進・発展の「鍵」を握る推進員の力量（専門性）の内実を具体的・系統的に明らかにし、その発掘・養成を図ることが必要である。そこで本研究では、協働活動の促進・発展を実現するために、地域・自治体等と連携し、以下の3点に取り組む。

- (1) 協働活動をコーディネートする地域学校協働活動推進員（以下、推進員）が果たす役割のモデル化。
- (2) (1)に基づいて、推進員が自らのアクションを構想したり、実践したり、点検したりする際に必要とされる力量（専門性）のルーブリック化。
- (3) (1)・(2)を踏まえた推進員の養成・研修プログラムの設計開発と実践・検証。

協働活動及び推進員の委嘱について社会教育法に明確に位置づけられたこともあり（2017年）、協働活動の重要性、それをコーディネートする推進員の発掘と養成の必要性は認識されているが、推進員の役割や必要とされる力量（専門性）については、具体的・系統的に明確化されていない。本研究によって、協働活動の促進・発展について、推進員の役割のモデル化および養成・研修プログラムの設計開発という視点から政策的に提言することを目的とする。

3. 研究の方法

以上の研究目的のもと、次のような方法で、4か年を通じて本研究を進めた。

【令和元年度】

(ア) 協働活動の促進・発展に資する推進員(ないしそれに類する役割を果たしてきた者：外部エージェント、例えば学校支援コーディネーター等、以下、推進員等)の優れた実践事例を収集するべく、複数の自治体(教育委員会)及び社会教育・生涯学習施設等の職員及び推進員等への聞き取り調査、アンケート調査を実施する。

(イ) 職員や推進員等の聞き取り調査、アンケート調査データをもとに、協働活動への具体的な関わりやその方法について、コンサルテーションの概念をもとに整理・分析し、推進員の役割のモデル化に向けた検討を行う。

(ウ) 協働活動の発展に資する外部エージェント(推進員等)の役割に関する理論的動向を把握するために、海外も含め書籍・学術雑誌のレビュー・検討を行う。

(エ) 上記(ア)～(ウ)を円滑に進めるために、研究代表者及び地域・自治体の関係者等が集い、定期的に打ち合わせ・学習会を実施する。

【令和2年度】

(ア) 令和元年度に実施した職員・推進員等への調査から得られたデータをもとに、地域・自治体等と連携して、協働活動の促進・発展に資する推進員の役割をモデル化する。

(イ) 上記(ア)をふまえて、地域・自治体等と連携し、協働活動の促進・発展に資する推進員のアクションを「ルーブリック(試案)」に纏める。

(ウ) 上記(イ)の妥当性を検証するために、多様な地域・自治体の関係者等に聞き取り調査を行う。あわせて、推進員に特徴的なアクションを一層明確化するために、大学研究者にも聞き取り調査を行う。

(エ) 上記(ア)について、研究論文として纏めるなど、研究成果の公表に努める。あわせて、研究知見の収集も行う。

(オ) 上記(ア)～(エ)を円滑に進めるために、研究代表者及び地域・自治体の関係者等が集い、定期的に打ち合わせ・学習会を実施する。

【令和3年度】

(ア) 令和2年度に開発した「ルーブリック(試案)」に対する評価情報(令和2年度(ウ)の取組)を整理・分析し、改訂の方針を定め、「ルーブリック」を完成させる。

(イ) 上記(ア)をふまえて、地域・自治体等と連携し、「推進員養成研修プログラム(試案)」を設計開発し、実践する。あわせて、認証制度(修了証授与等)の検討を行う。

(ウ) 上記(イ)の結果を受講者のアンケート調査等から検証し、改善する。

(エ) 上記(ア)～(ウ)を円滑に進めるために、研究代表者及び地域・自治体の関係者等が集い、定期的に打ち合わせ・学習会を実施する。

【令和4年度】

(ア) 昨年度までの研究成果を踏まえて、推進員の「養成・研修プログラム」(完成版)を設計開発する(認証制度含む)。

(イ) 上記(ア)で開発した「養成・研修プログラム」を実践し、検証する。

(ウ) 上記の研究成果については、日本学習社会学会第19回研究大会において研究発表を行うとともに、研究論文として纏める。

4. 研究成果

(1) 地域学校協働活動推進員(初任者)に必要とされる力量(資質・能力)の析出

4ケ年の研究から得られた知見を活かし、また、地域学校協働活動推進員や担当行政職員等関係者との協議・検討を経て、地域学校協働活動推進員(初任者)に必要とされる力量(資質・能力)として、「知る・知らせる」・「聞く・つなげる」・「実行する・育てる」・「振り返る・支える」を析出・整理することができた。

○「知る・知らせる」能力は、「学校に足を運び、地域ボランティアに対する学校のニーズを知る。学校の地域ボランティアに対するニーズを知ると同時に、地域の学校に対する願いを整理する。」に整理することができた。

○「聞く・つなげる」能力は、「学校のニーズと地域ボランティアの希望を丁寧に聞く。学校のニーズと地域ボランティアの希望を丁寧に聞き、地域学校協働活動の内容を企画する。」に整理することができた。

○「実行する・育てる」能力は、「学校のニーズに応じる地域ボランティアの活動を実行する。目指す子どもの姿を明確にもち、学校のニーズに応じた地域ボランティアの活動や、地域行事等への子どもへの参加を推進する。」に整理できた。

○「振り返る・支える」能力は、「学校等の思いと地域ボランティアの思いが一致しているのか振り返る。学校等と地域ボランティアが思いを共有し、学校や地域の発展と児童生徒の成長のために何ができたのかを振り返る。」に整理することができた。

(2) 地域学校協働活動推進員等養成研修の設計・開発

また、こうした資質・能力を育成するための養成研修会を設計・開発し、実施した。

第1回：地域学校協働活動の必要性と地域課題の発見。

第2回：地域学校協働活動推進員の役割と地域の可能性を自覚。

第3回：地域学校協働活動をコミュニティ・スクールとの関係で理解することと、相互支援の方向の理解。

第4回：地域と地域に生きる子どもたちの発展のために、自分ができることを見つける。

(3) 地域学校協働活動推進員が身につけるべき能力のルーブリック化

職員・推進員等への調査から得られたデータをもとに、地域・自治体等と連携して、協働活動の促進・発展に資する推進員の役割をモデル化し、地域・自治体等と連携し、協働活動の促進・発展に資する推進員のアクションをルーブリックに纏めた。

＜地域学校協働活動推進員が身につける能力（ルーブリック）＞						
地域学校協働活動推進員の能力	評 価					
	1	2	3	4	5	
知る・知らせる	<ul style="list-style-type: none"> 学校たより等から学校を知ることがある 	1の基準は満たしているが、3の基準に対して不十分な点がある	<ul style="list-style-type: none"> 学校に足を運び、地域ボランティアに対する学校のニーズを知る。 	3の基準は満たしているが、5の基準に対して不十分な点がある	<ul style="list-style-type: none"> 学校の地域ボランティアに対するニーズを知ると同時に、地域の学校に対する願いを整理する。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 回覧板等で連絡事項を伝えるようにしている 		<ul style="list-style-type: none"> 学校の希望を地域に伝え、地域ボランティアを募るなど、学校の実態を地域に知らせる。 		<ul style="list-style-type: none"> 学校の経営方針や希望をわかりやすく地域に伝え、地域ボランティアの可能性を知らせる。 	
聞く・つなげる	<ul style="list-style-type: none"> 活動に参加して会話することがある 		<ul style="list-style-type: none"> 学校のニーズと地域ボランティアの希望を丁寧に聞く。 		<ul style="list-style-type: none"> 学校のニーズと地域ボランティアの希望を丁寧に聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校のニーズと地域ボランティアの希望を丁寧に聞き、地域学校協働活動の内容を企画する。
	<ul style="list-style-type: none"> 学校や地域における会合等では挨拶している 		<ul style="list-style-type: none"> 聞き出した学校の希望や地域の思いをそれぞれに伝え、学校と地域をつなげる。 		<ul style="list-style-type: none"> 企画した地域学校協働活動の内容を実現するために、学校と地域をつなぎ、リードする。 	
実行する・育てる	<ul style="list-style-type: none"> 依頼されたら参加する準備がある 		<ul style="list-style-type: none"> 学校のニーズに応じる地域ボランティアの活動を実行する。 		<ul style="list-style-type: none"> 学校のニーズに応じる地域ボランティアの活動を実行する。 	<ul style="list-style-type: none"> 目指す子どもの姿を明確にもち、学校のニーズに応じた地域ボランティアの活動や、地域行事等への子どもの参加を推進する。
	<ul style="list-style-type: none"> 地域について質問されれば答えている 		<ul style="list-style-type: none"> 教職員に対して、地域の特色や地域ボランティアについて理解する研修を行い教職員を育てる。 		<ul style="list-style-type: none"> 教職員や児童生徒に対して、地域の特色や地域ボランティアについて理解する研修を行うと同時に、地域ボランティアへの研修を行う。 	
振り返る・支える	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価に協力する準備がある 		<ul style="list-style-type: none"> 学校等の思いと地域ボランティアの思いが一致しているのか振り返る。 		<ul style="list-style-type: none"> 学校等の思いと地域ボランティアの思いが一致しているのか振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校等と地域ボランティアが思いを共有し、学校や地域の発展と児童生徒の成長のために何ができたのかを振り返る。
	<ul style="list-style-type: none"> 学校や地域の行事等に参加したことがある 		<ul style="list-style-type: none"> 学校等と地域ボランティアの思いをつなぎ合わせ、活動が継続するように工夫する。 		<ul style="list-style-type: none"> 学校等と地域ボランティアが思いを共有し、活動が継続・発展していくためのPDCAサイクルを構築する。 	

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計31件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 青山朋宏・益川浩一	4. 巻 7
2. 論文標題 岐阜市立岐阜小学校コミュニティ・スクールの組織と実践 地域と学校の連携・協働による「ふるさと大好き」の取組	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 岐阜大学地域協学センター地域志向学研究	6. 最初と最後の頁 39-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西村寛良・益川浩一	4. 巻 7
2. 論文標題 岐阜県山県市の「山県市型コミュニティ・スクール」の構想と実践 地域と学校のコラボが新たな学びを生む	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 岐阜大学地域協学センター地域志向学研究	6. 最初と最後の頁 50-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤あゆみ・益川浩一	4. 巻 7
2. 論文標題 岐阜県中津川市付知公民館における子どもたちと地域住民との協働による「命を守る訓練」の実践 公民館による子どもを核とした地域づくり	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 岐阜大学地域協学センター地域志向学研究	6. 最初と最後の頁 62-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今尾謙二・益川浩一	4. 巻 7
2. 論文標題 SDGsの達成に向けた多様な他者と協働する資質・能力を育む小学校教育の推進	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 岐阜大学地域協学センター地域志向学研究	6. 最初と最後の頁 67-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島田崇正・益川浩一	4. 巻 7
2. 論文標題 岐阜県富加町における史跡や文化財を活用した高校生と地域住民の協学による教育プログラムの開発と実践	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 岐阜大学地域協学センター地域志向学研究	6. 最初と最後の頁 79-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瀬織守章・塩月祥子・益川浩一	4. 巻 7
2. 論文標題 岐阜県白川町におけるボランティア団体による地域学校協働活動の促進	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 岐阜大学地域協学センター地域志向学研究	6. 最初と最後の頁 106-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑原真紀・益川浩一	4. 巻 7
2. 論文標題 岐阜県多治見市における社会教育施設の特徴を活かした多世代交流と学校運営協議会を通じた地域連携	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 岐阜大学地域協学センター地域志向学研究	6. 最初と最後の頁 126-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横山美智代・益川浩一	4. 巻 7
2. 論文標題 つながりを生む学校運営協議会と地域学校協働活動の実践 - 岐阜県可茂地区における学校運営協議会と地域学校協働活動 -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 岐阜大学地域協学センター地域志向学研究	6. 最初と最後の頁 134-145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤誠一・益川浩一・二村玲衣	4. 巻 39(1)
2. 論文標題 アクティブ・ラーニングを重視した社会教育主事(社会教育士)養成課程科目の意義と課題	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 岐阜大学カリキュラム開発研究	6. 最初と最後の頁 47-56
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田川真紀夫・小原一喜・益川浩一	4. 巻 7
2. 論文標題 Society5.0に向けた官学連携による数理・データサイエンス教育とキャリア教育を融合した統計インターンシップの意義と課題	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 岐阜大学地域協学センター地域志向学研究	6. 最初と最後の頁 97-105
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川夏海・益川浩一	4. 巻 6
2. 論文標題 放課後子ども事業の現状と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 モノグラフ 地域学校協働活動	6. 最初と最後の頁 1-74
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長屋メイ子・益川浩一	4. 巻 6
2. 論文標題 保護者の主体的な学びを支える家庭教育支援	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域志向学研究	6. 最初と最後の頁 43-48
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩田睦巳・益川浩一	4. 巻 6
2. 論文標題 地域学校協働活動の推進と教師の役割	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域志向学研究	6. 最初と最後の頁 49-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩田睦巳・益川浩一	4. 巻 6
2. 論文標題 岐阜県内における社会教育士の活動に関する実態と動向	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域志向学研究	6. 最初と最後の頁 55-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 細田修・益川浩一	4. 巻 6
2. 論文標題 社会教育と福祉を統合した地域づくりを目指す「社会教育福祉」実践	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域志向学研究	6. 最初と最後の頁 63-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 苅谷孝弘・益川浩一	4. 巻 6
2. 論文標題 子どもたちが自立した大人に育っていくための学校運営協議会の未来	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域志向学研究	6. 最初と最後の頁 74-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丹羽英仁・板屋沙織・益川浩一	4. 巻 6
2. 論文標題 地域資源を活かした地域志向人材育成を通じた地域創生の試み	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域志向学研究	6. 最初と最後の頁 107-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田近岳裕・山内あずさ・古川由佳子・山内茂樹・岩田睦巳・新井恒雄・水野光芳・益川浩一	4. 巻 6
2. 論文標題 ウィズコロナ時代におけるオンラインによる「協働的な学び」とアクティブ・ラーニング	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域志向学研究	6. 最初と最後の頁 114-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長屋メイ子・益川浩一	4. 巻 6
2. 論文標題 地域学校協働活動の推進に向けた方策の検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域志向学研究	6. 最初と最後の頁 148-155
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤誠一・益川浩一	4. 巻 38(1)
2. 論文標題 全学共通教育における社会教育主事(社会教育士)養成課程の特徴と課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 岐阜大学カリキュラム開発研究	6. 最初と最後の頁 181-189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤由美子、長屋メイ子、益川浩一	4. 巻 5
2. 論文標題 地域学校協働本部の組織化に関する実態把握と類型化の試み	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 岐阜大学地域協学センター 地域志向学研究	6. 最初と最後の頁 24-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長屋メイ子、益川浩一	4. 巻 5
2. 論文標題 学校と地域の連携・協働による「社会に開かれた教育課程」に関する考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 岐阜大学地域協学センター 地域志向学研究	6. 最初と最後の頁 45-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今泉雄大、益川浩一	4. 巻 4
2. 論文標題 放課後子ども教室に関する研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 モノグラフ 地域学校協働活動	6. 最初と最後の頁 1-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤志織、益川浩一	4. 巻 5
2. 論文標題 地域における子育て支援事業に関する研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 モノグラフ 地域学校協働活動	6. 最初と最後の頁 1-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀智考・益川浩一	4. 巻 4
2. 論文標題 地域学校協働本部と学校運営協議会の一体的な体制整備に向けた推進方策について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 岐阜大学地域協学センター 地域志向学研究	6. 最初と最後の頁 16-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田雅裕・益川浩一	4. 巻 4
2. 論文標題 岐阜市「地域活動指導員」としての実践を通じた学校と地域との連携に関わる調査研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 岐阜大学地域協学センター 地域志向学研究	6. 最初と最後の頁 24-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石原学・堀智考・安藤由美子・益川浩一	4. 巻 4
2. 論文標題 地域と学校の連携・協働の促進に向けた支援の取組と市町村における地域と学校の連携・協働の組織化の方向性についての考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 岐阜大学地域協学センター 地域志向学研究	6. 最初と最後の頁 34-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤由美子・石原学・益川浩一	4. 巻 4
2. 論文標題 地域学校協働活動を推進する地域人材の育成	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 岐阜大学地域協学センター 地域志向学研究	6. 最初と最後の頁 48-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山下紗和・益川浩一	4. 巻 3
2. 論文標題 子ども・家庭のセーフティネットとしての子ども食堂	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 モノグラフ 地域学校協働活動	6. 最初と最後の頁 1-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 寺尾美紅・益川浩一	4. 巻 2
2. 論文標題 体験活動が子どもの生活に与える影響	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 モノグラフ 地域学校協働活動	6. 最初と最後の頁 1-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 室井みなみ・益川浩一	4. 巻 1
2. 論文標題 子どもを対象とした学習支援に関する研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 モノグラフ 地域学校協働活動	6. 最初と最後の頁 1-141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 1件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 益川浩一
2. 発表標題 地域と学校との協働による地域人材育成の実態とその課題
3. 学会等名 日本学習社会学会（招待講演）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------